

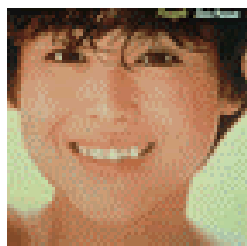


嗚呼！！ 花の59年卒 男 涙のボート部人生

私達が入学した昭和55年...
モスクワオリンピックはボイコット、
大平首相が急逝し、山口百恵は引退。
新宿駅西口でバスは焼かれ、
親父は息子に金属バットで殴られ、
ジョン・レノンが射殺されました。
でも、ボク等はめげなかった。
そう、松田聖子がデビューして
希望と潤いを与えてくれたのです。



(1年生の夏、荻野合宿で優しい3年生の先輩たちと)



聖子ちゃんの歌声を聴けば54号館地下サティアンの
辛い練習も根性で乗り切れたし、



臭くて汚い部室も息を止めて耐えました。



第22回全日本新人選手権競漕大会 56. 10. 16~18 (於戸田オリンピックコース)

歳暮配達のアルバイトで稼いだお金で合宿所の家賃と食費をまかないました。合宿の成果を数々の試合にぶつけては、砕け散る日々でした。でも決してくさることなく、青春の炎を燃やし続けました。



そして昭和59年春、夢と希望を抱いた若者たちは社会へと旅立っていったのでした。
(次項へつづく)



卒業してからは、大学生活でやり残したテニスなるものに手を染めたこともありましたが、才能が開花することは決してありませんでした。

スカッ



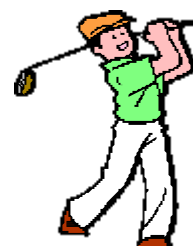
スキーというハイカラなスポーツにトライしたこともありましたが、ゲレンデよりも休憩所で過ごす時間のほうが長かったです。

ビール、ビール



ちょっと気取ってゴルフをやってみたこともあるけれど、ボールはオールと違って全然いうことを聞いてくれませんでした。

フォアー！



でも、気の知れた仲間でワイワイと酒を飲んでいる時間は、何よりも素晴らしいものでした。



そうこうしているうちに、家族が一人増え、二人増えとにぎやかになる一方で、肩に乗っかる重みもズッシリと増えてきた今日この頃です。



だけど、ボク等はへこたれない。
明日へ向かって前進あるのみ！
スパート行こう、さあ行こう！

（ 59 年卒部員 ）

荒川、岩井川、大谷、岡村、
小野澤、梶谷、久保村、
熊谷、栗原、佐久間、佐藤、
都築、土屋、徳光、堀内、
森園、和田、松浦（物故）

